

---

# 『貴方となら死んでもいい』

ものもらい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『貴方となら死んでもいい』

### 【Nコード】

N43550

### 【作者名】

ものもらい

### 【あらすじ】

ある恋人たちの夜。

彼女は幻想の世界に夢中で、彼は（寂しく）月見中。そんな彼らの、  
普段となんら変わらない戯れ。  
キャラクター

## (前書き)

\*自作の主要キャラが登場してるけど話の関連性は無いです。  
文化祭の作品の使い回し+一時間で仕上げましたクオリティ+セリフのみでもいい方はどうぞ。

「大きな満月だな…つと悪い、ヘッドホンはずしちゃった」  
「ん、大丈夫」  
「悪いな…ああ、ほら見てみるよ榎耶、綺麗な円形がはっきり見えるぞ、アレ」  
「あ。ホントだ」  
「大きくて綺麗だな…」  
「え、何？千代って大きいのが好きなの？」  
「いや、別に小さいのも好きだよ、俺。遠目に見るのも情緒があつていいし」  
「え…そういう趣味なの千代君。最後までか想像するだけでもキモイんだけど」  
「キモ…え！？じゃあお前はどんなのが好きなの!？」  
「外見だけならまあ…綺麗な形なら何でもいいんじゃないの」  
「適当!？」  
「大事なものは形とか大きさじゃないでしょ。心でしょ。…まったく最近の若い子は…」  
「…いや、あの、アレに心は無いだろ…生物じゃないぞアレ」  
「え…そりゃあ二次元の中に生きてる存在だけど、彼女にだって心はあるよ。現に今『こ、このハート泥棒！私のこと、責任とってよ!』って迫ってきてるもん」  
「…もしかしてお前、さっきからそのパソコンのこと言ってる?」  
「今二人目を落としたとこなの。三人目はヤンデレな子で、バッドエンドが三つとハッピーエンドが一つしかない難しい子で…ああやつと告白を断って後ろから刺されて監禁されるルートが終わった…」  
「ねえ何その犯罪ゲーム!？」

「犯罪ゲーム違う。ギャルゲーだから」

「そんなギャルゲー聞いたこと無いんだけど!!」

「良かったね聞けて」

「良くないわ!…おいまで。じゃあお前、今まで俺と何の会話してるつもりだったんだ?」

「え…胸の話じゃないの?」

「はあ!？」

「まあ私は胸より足の形が綺麗な子の方が好きだけど。でも千代、遠目からガン見とか幼女の胸が好きとか…女の子の前で言わないでよ」

「言っていない!俺は満月の話しかしてない」

「満月うー?…ふーん」

「ちよ、ヘッドホン被り直すなよ!電源落とすぞそのパソコン!」

「そんなことしたら私のジャーマンスープレックスが火を噴くぜ」

「あの技は火なんか噴かぬーよ!」

\*

「…やれやれまったく。第一何で急に月がうんたら言い始めたの?」

「お前がパソコン占領してるから暇なの!月見てるくらいいしかないの!」

「漫画あるでしょ。ちなみに『うみ このなく頃に』がオススメ」

「これ推理モノだろ…ていうか全部魔法で犯行してるんじゃないの。考えるのめんどい」

「ああ駄目だな。全っ然駄目だ!そんな負け犬精神だから一週間勉強しても一夜漬けの私にテスト勝てないんだよ」

「うるさいわ!第一二、三点の差じゃん!」

「もうそこから駄目なんだよ…で、ミサちゃんと恋愛してていい?」

「駄目!なんか悲しくなるから駄目!」

「えー…」

「ほら、お前はどんな月が好きなんだ」  
「特にん…ああ、凄く大好きな月が一つだけあるよ」  
「え、マジで」  
「うん。ホラ、私の目の前で駄々をこねてる可愛いお月さんが」  
「か、榎耶…！」  
「ふふ…じゃあ読者のみなさん！シーユーアゲイン！ハバナイスデ  
イ！」

完。

「  
って終わらせんな！！全っ然、上手くないわ！」  
「ハハハ。いやあ良いモノ見れた」  
「くそ…っ第一何でお前はそういう…タラシなんだよ！」  
「タラシ違うよ。紳士なだけだよ」  
「紳士はそういう事言わない！」  
「まあ私が攻めっばい気質なのはあれのせいかな。昔女の子と…付き合ってたから」  
「ええっ！？じゃ、じゃあロザリオとか渡したのか！？」  
「…うん、千代のそういう情報源がアレなのは私のせいだね。あと御両親に責任取りますって言って来よう…あとロザリオは妹に渡す奴だからね」  
「ご、ご両親にせ、責任って…！」  
「聞いて無いし類染めてるし…まったくこの子は」  
「ほ、本当に付き合ってたのか！？」  
「…それを知るのは魔女か悪魔だけだね」  
「『うみ このなく頃に』ネタも面白いから！」

\*

「……………」  
「……………」  
「……なんで私達ってテンション(?)のアップダウンが激しいんだろっね…急に停滞期突入だよ」  
「……何か喋ってて」  
「あ、そのぬいぐるみ抱いたまま寝転ばない方が…」  
「え…うわああああ何か内臓的なのが腹と目から出てる!」  
「落ちつけ、目から出てるのは脳だから。目から内臓は出ないから」  
「ききき気持ち悪う!」  
「うんうん分かったから。…さて、ミサちゃんと恋愛してこよーっ  
と」  
「それはらめえええええ!!」  
「アツ　　!パソコンがああ!!」  
「大丈夫、勢いあまってぬいぐるみ投げちゃったけどパソコン壊れて無いから…泣くなよ!」  
「うう…赤で宣言してやる!」千代は明日から私の手によってネットゲ廃人にされる『」  
「それ宣言ってか予告じゃね?」  
「くたばれリア充が!!」

\*

「……とりあえず乙」  
「……何が」  
「いや、さっきまでの大乱闘を称えてね」  
「称えて無いよそれ」  
「………良い月だね」  
「冒頭に戻るのか」  
「何かもう話題が無い」  
「…そうだな」

「……あ、そつだ、月を題に君に愛の言葉を囁こつ」  
「……えっ!？」  
「何か嬉しそうだね」  
「うう嬉しくないもん馬鹿あ!」  
「よしよし分かった……ん、んー、ごほん、」  
「……」  
「千代」  
「う、うん!」  
「……月が、」  
「月が!？」  
「綺麗ですね」  
「……?そつですね」  
「……」  
「……」  
「……これだからお馬鹿さんは……」  
「えええええ俺が悪いの!？」  
「女の子に恥かかせるとか最低……!」  
「ちょ、嘘でも泣くのはやめろ!俺が悪いみたいだろ!」  
「悪いんだよ!もうググれよこのカスが!」  
「カスつて言われた　　!」

\*

「意味調べたー?」  
「……」  
「……え、返事は……って泣いてるし!？」  
「……こ、こんな情緒ある言葉をくれるなんて……俺も愛してる……!」  
「ちょ、ティッシュやるから近寄んな」  
「酷い!……!」

「で、私がこんな趣のある告白したんだから、千代君からは？」

「…お、俺古典苦手だから……っっていうと思ったたる！？ちゃんと一緒にググったぜ！いくぜ俺のスペルカード！」

「やばいぞ何か千代君のテンションが上がり過ぎて頭悪い事言い始めた」

「うるさいよー」

「まあこの際テンションはどうでもいいや。はい、どーぞ」

「おう。あーっと、」

「

」

(後書き)

\*ものもらいのブログの、

「We'll be like a star!」[http://](http://kadu.blog.ocn.ne.jp/ave2910/)

[kadu.blog.ocn.ne.jp/ave2910/](http://kadu.blog.ocn.ne.jp/ave2910/)では

作品のイラストや更新情報が更新されます。荒らしの方以外はどうぞ

お寄りください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4355o/>

---

『貴方となら死んでもいい』

2011年3月10日18時25分発行